



Title	科学技術コミュニケーション第27号編集後記および奥付
Author(s)	川本, 思心; 池田, 貴子
Citation	科学技術コミュニケーション, 27
Issue Date	2020-08
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/79093">http://hdl.handle.net/2115/79093</a>
Type	bulletin (other)
File Information	JJSC27_editorial-note_colophon.pdf (奥付)



[Instructions for use](#)

## 科学技術コミュニケーション 第27号 編集後記

約9年ぶりの編集後記です。これまで本誌は2011年6月の第9号と、同年12月の第10号にのみ編集後記を掲載していました。そこで述べられていたのは東日本大震災でした。本27号ではやはりCOVID-19に言及することになりますが、編集後記が復活したのはその理由からではありません。

これまでJJSCは関連分野の有識者にアドバイザーになっていただき、そのコメントを受けて編集方針の改善をはかってきました。しかしそのやりとりは編集委員会内部に閉じており、アドバイザーとはもちろん、読者、投稿者とのコミュニケーションが十分ではないという課題が指摘されてきました。そこで編集後記を復活することに致しました。第23号から第26号までのアドバイザーである東島仁氏、八木絵香氏、吉澤剛氏に厚く御礼申し上げます。

第27号からはアドバイザーとして加納圭氏、竹田宜人氏に御着任頂きました。また、編集委員として、JJSC史上初となる北海道大学以外の工藤充氏が加わりました。

さて、COVID-19です。2020年1月中旬ごろから日本でも徐々に危機感が高まりましたが、私たちがすぐには動けず、CoSTEP2019年度修了式が終わって一段落した3月中旬から緊急小特集を企画し始めました。私の若干強引な企画推進に対し、様々な側面から建設的な議論、提案をしていただいた編集委員およびアドバイザーの皆様へ感謝申し上げます。

掲載した緊急小特集の論考5本は、どれもHUSCAPのダウンロード上位に並び、序文は1,716件、内村論考は5,340件、調論考は3,523件、吉澤論考は1,565件、種村論考は554件となりました(7月3日時点)。社会的関心の高さが伺えます。

本稿執筆中の7月上旬、第3波(道外は第2波)の訪れを感じつつ、引き続き第28号でも緊急小特集を継続すべく編集の任に当たりたいと思います。  
川本 思心(編集長)

JJSC読者の皆さんにとってはほとんど一般常識かもしれない「科学技術コミュニケーション」という言葉も、自然科学研究者のあいだではまだ、すっかりおなじみというわけにはいきません。それでも、研究成果を現実の社会に還元したいと真剣に考える科学者は、徐々に増えてきたように思います。特に私が属する日本の動物学研究の分野では、獣害、人獣共通感染症、外来種といった野生動物をめぐる問題が急激に深刻化したことで、研究と社会をつなぐ場や人材の必要性を強く意識する場面が増えてきました。学会大会のなかでも、そういった社会とのコミュニケーションに焦点を当てた発表やセッションが、近年いくつか開かれています。

2年前に発行したJJSC第23号では、人と動物との距離感を考えるというテーマで小特集を組みました。そのなかの外来種対策についての池田透氏によるノートは、掲載以来順調にダウンロード件数を伸ばし、7月10日時点で通算20,680件となりました。研究機関だけでなく、地方自治体や教育ネットワーク、マスメディアからのアクセスが目立つことから、外来種問題に対する社会の関心の高さが伺えます。同時に、アクセスしやすい情報源の少なさも反映しているのではないかと思います。通常、自然科学研究の発表の場は国際誌であるため、一般にはハードルが高いですし、日本語検索ではヒットしません。その意味でも、この小特集ノートは科学と社会をつなぐ一助となったのではないかと思います。このノートは、令和2年度の大学入試問題に採用されたことも付け加えておきます(岩手県立大学総合政策学部 前期一般入試総合問題 2020)。

JJSCが、社会にとって科学に気軽にアクセスできるようなフックとなれるよう、また、自然科学研究者にとっても社会とつながる身近な場となれるよう、これからも精進したいと思います。  
池田 貴子(副編集長)

編集委員会委員

池田 貴子(副編集長)      奥本 素子      川本 思心(編集長)      工藤 充  
佐々木 亨                      種村 剛      西尾 直樹                      朴 炫貞  
山下 俊介

編集委員会補佐

梶井 宏樹      原 健一

アドバイザー

加納 圭      滋賀大学 教育学部 教授  
竹田 宜人      北海道大学 大学院工学研究院 客員教授

本誌は、北海道大学学術成果コレクション (<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>) に登録されています。このURLより、オンライン版を無料で読むことができます。元の原稿においてカラーで作成された図表類は、オンライン版ではカラーのまま掲載しています。投稿規定や執筆要領は、本誌のウェブサイト (<http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/jjsc/>) に掲載しています。

---

---

『科学技術コミュニケーション』第27号

Japanese Journal of Science Communication, No. 27

2020年8月発行

編 者 『科学技術コミュニケーション』編集委員会  
<http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/jjsc/>  
<https://www.facebook.com/jjsc.jp/>

発 行 者 北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)  
060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
<http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/>

ISSN 1881-8390

---

---